

きずなを結ぶ

大項目		成果・課題	施策番号	概要版より抜き出した進捗状況等
-1	信頼のきずなによる安全で安心できるまちづくり	主な成果・実績等	(1)	「いのちをつなぐネットワーク事業」は、配達事業者等民間企業も含めた幅広い協力体制をつくり、全国的にも注目され、民生委員等から高い評価を得ている。
			(2)	医療に対する市民の評価は高く、今後も力を入れてほしいという要望も強い。また、救急体制については、薬剤投与及び気管挿管認定救急救命士の養成が進んでおり、救命講習の受講者数も増加している。
			(3)	防犯活動は各地域で活発に行われており、刑法犯認知件数は、2011年度には過去最も多かった2002年度の約1/3となった。
			(4)	大規模な自然災害や事故などに備えて、市と民間企業、大学などが連携して総合的に危機応能力の向上を図っており、東日本大震災後はその取り組みを一層強化した。
			(4)	大規模自然災害等における人命救助活動に必要な資機材の整備は進んでおり、地域の防災リーダーである消防団員も高い充足率を保っている。
		主な課題等	(1)	生活保護については、受給者の増加傾向が全国を上回っている。
			(3)	2010年度に福岡県暴力団排除条例が制定されたが、その後、条例に反発する暴力団の犯行と見られる凶悪事件が相次ぎ、危害を受けるおそれがある市民・企業などの安全対策が喫緊の課題となっている。
-2	誰もが元気で安心して地域で生活できるまちづくり	主な成果・実績等	(1)	「年長者研修大学校」や「生涯現役夢追塾」では入学者や参加者の増加がみられる。
			(1)	「地域包括支援センター」は、介護に関する相談をはじめ、認知症や虐待・権利擁護に関する相談など、年間20万件を超える相談に対応している。
			(2)	グループホーム等の整備を促進し、設置箇所数及び利用者数が増加し、障害者施設から地域での生活に移行する人の数も増加している。
			(2)	障害者しごとサポートセンターにおける就職支援に力を入れたことにより、厳しい経済情勢のなかで就職件数は当初目標を上回った。
			(3)	市民センターを拠点とした健康づくり事業を実施する市民センター数は97団体に広がっている。
		主な課題等	(1)	高齢者自身が超高齢社会を支えるマンパワーの一員であるという意識を醸成し、経済活動や社会貢献活動の担い手として活躍できる環境づくりの促進が課題である。
			(3)	健康マイレージ事業は、参加者数の多くが高齢者であり、40歳～64歳の参加が少ないため、参加しやすい取組の実施が課題である。
-3	すべての市民が人権を尊重され自分らしく暮らせるまちづくり	主な成果・実績等	(1)	「認知症サポーター」の養成講座では、中学生や高校生などへの普及・促進にも力を入れて取り組み、実績をあげている。
			(2)	市役所における女性職員登用、市の付属機関等における女性の参画、地域活動における意思決定の場への女性の参画促進などに取り組んでいる。
			(3)	多言語による情報提供、日本語習得支援、相談体制の充実などに取り組み、「子育て相談と日本語教室」の参加者は目標を上回って増加し、無料相談窓口の相談件数も目標をほぼ達成した。
			(4)	非核平和都市宣言後に実施した事業については順調に推移しており、「戦時資料展示コーナー」の見学者が増加するなどの成果が現れている。
		主な課題等	(1)	「市民後見人」の研修修了者数や後見業務に携わる人も増えている。現状では活躍できる機会はさほど多くないが、認知症の高齢者は増加しており、後見人の育成は急務といえる。
			(1)	児童虐待は2006年度以降減少傾向にあったが、2011年度の虐待対応件数が増加していることから、今後も児童虐待の早期発見・早期対応を行うため、関係機関と十分な連携が必要である。